

今号は特大合併号

4/27
5/4

次号発行は
5月11日号



対馬丸記念館の展示室に並ぶ犠牲者の遺影(画像は一部加工しました)

子ども千人犠牲なぜ

沖縄戦 撃沈された疎開船「対馬丸」

80年前に米軍が上陸し、住民を巻き込む悲惨な地上戦となった沖縄戦。20万人余の命が失われました。実は、「海の沖縄戦」は地上戦がおこなわれた1945年より前に始まっていた。その一つが、学童疎開船・対馬丸事件です。

対馬丸(6754ト)は、14年に日本郵船が建造した貨物船です。アジア太平洋戦争末期に日本軍の要請で政府は沖縄のお年寄り、子ども、女性を島外へ疎開させる命令を出しました。その輸送を担うことになったのが当時、軍に徴用されていた対馬丸でした。

44年8月19日に那覇港に到着した対馬丸は、疎開学童、引率教員、一般疎開者を乗せて21日に長崎へ向け出航。翌22日に鹿児島県・悪石島沖で米軍潜水艦から魚雷攻撃を受け沈没しました。

乗船していた1788人のうち少なくとも1484人が犠牲になりました。このうち0〜15歳の犠牲者は1040人に及びます。(2024年8月22日まで名前が判明した数)



今また「戦争避難計画」

こんな悲劇を強いられ、今、新たな「避難計画」を迫っているのが石破政権です。

政府は、有事に際し沖縄県の宮古・八重山諸島の住民ら約12万人を九州・山口各県に避難させる計画を公表(3月27日)。「沖縄の戦場化を前提とした計画は受け入れられない」(琉球新報、同28日付社説)など怒りの声があがっています。

当時4歳で対馬丸に乗り船していた照屋恒(ひろこ)さん(85)。「忘れなくてはならないのは対馬丸が攻撃されたのは戦争中だったから。戦争だけは絶対にだめです」

多数の子どもたちが犠牲になった対馬丸の悲劇がなぜ起きたのか。5月5日の「こどもの日」を前に、その深層と、今に問いかける教訓とは何かを追いました。田中智己記者

6、7面で特集



消費税減税の財源ある
日本共産党の緊急提案に注目
ラピダス巨額支援の非常識
現代人の苦悩の由来